【予習必須】株価の大暴落時、絶対やってはいけない投資行動

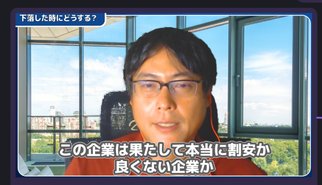
市場のきな臭さを示すシグナルと行動指針

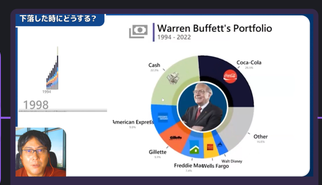
- 市場過熱の指標(PER等)から過熱感を判断する
  -

    市場PERが25倍超は過熱サイン
  - 特定銘柄が行き過ぎていることがある
  - 新産業の成長はあるが市場全体は過熱している可能性がある
  - 過熱感があれば一部を現金や米国債に移す
-

  過熱に気づけなかった場合のショック後の行動指針
  - ショック後もレバレッジがなければインデックスは回復しやすい
  - 収入がある場合は下落で買い増しを続ける（ドルコスト）
  - 急いで全売却するのは避ける
  - 個別株で倒産の危機が明確であれば別措置が必要だが、一般的なインデックスは放置や継続積立が有効との指摘。

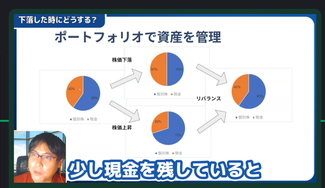
大口投資家の行動事例から学べる運用行動（バフェット等）

- 個別株判断が難しい場合はインデックスやバークシャー保有を代替策とする
  - 

    個別株の割安判断は難しい。インデックスやバークシャーを代替策とする
  - ショック時には市場全体が過度に安く評価される傾向がある
  - 過剰売り銘柄を狙うことが有効な場合がある
  - バークシャー購入で間接的に好機を享受できる可能性がある
- 

  バフェットのキャッシュ比率調整と安値での買い直しの事例
  - バフェットは好調時にキャッシュ比率を高め、下落時に積極投資する
  - リーマン時にバークシャーは優先株で資金供給した
  - バークシャーの大量保有が副次的利益を生む
  - バークシャー株を保有することで彼の哲学を取り入れられる
- 大口投資家のポートフォリオ変化を参考に現金比率を判断する方法
  - バークシャーのキャッシュ増加を参考に現金比率を上げるのは妥当
  - バークシャー保有でその投資効果を享受できる
  - 他の信頼できる主体のポートフォリオを参照するのは有効

ポートフォリオ構築とリバランス、現金比率や米国債を用いた備えの具体策

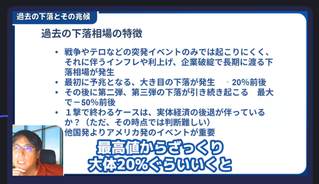
- 

  最高値局面で現金比率を確保し下落時に買い増すリバランス方法
  - 例: 資産を60%株、40%現金にして下落時に買い増す
  - 全資産を現金化するとインフレで目減りするリスクがある
  - 最高値でリバランスして現金を確保し下落時に買い増す
  - 積立継続は安く多く買えるので有効
- 米国債などの安全資産を現金代替として保有する利点
  -

    長期米国債は危機時に価格上昇しヘッジとなる
  - 現在は約5%利回りで現金より利回りが得られる
  - 運用主体は現金とトレジャリーを大量保有する
  - 現金の一部を高利回り安全資産に替えて買い増し余力を確保
- 積立や分散運用を続ける有効性と心理的影響
  - 積立継続で下落時により多く買える
  - インデックスを長期保有するのが最も安定的
  - オプショナリティを保つと下落時に行動しやすい
  - 個別株の短期判断は難しくインデックス中心の買い増しを推奨

過去の大幅下落事例とマーケットの習性を示す基本的な振り返り

- 代表的な下落事例と各事象で見られた大幅な下落率
  -

  - ITバブルやリーマンショックでは最終的に概ねマイナス50%前後の下落
  - ブラックマンデーのようなフラッシュクラッシュは一日で急落する一発物の事象
  - コロナショックでは約35%の下落、その後の利上げショックで23%程度の下落など
- 過去の傾向から見た「最初の変調」として約マイナス20%という目安
  - 

    過去の多くのケースで最高値から概ねマイナス20%前後が「最初の変調」のトリガーとして機能し得る
  - マイナス20%を超えるかどうかで、その後にさらに大きな暴落（例えば50%程度）に進展するか一時的な修正で済むかを見極める判断
  - 一発で大幅下落に至るケースは金融信用の毀損など特殊要因が絡むことが多く、通常は段階的に変調が進む
  - 過去のパターンを前提に「必ず下落は起こる」という心構えで準備を始めるべき
- 下落時には上昇も頻繁に起きるという価格の大きな振れ幅とトレード困難性
  - リーマンショックやコロナショックでは大きな下落の直後に非常に大きな上昇が観測され、一方向に賭けるトレードが困難
  -

    過去最大級の下落が起きた翌日に過去最大級の上昇が出るなど、短期の上下フラッシュが頻発するためショートを継続するリスク
  - 上昇と下落の大きなローソク足が交互に出現するようなジグザグ相場では方向取りの短期トレードは非常に難しい
  - そのため短期的なレバレッジ取引や一方向のヘッジは逆噴射で大きな損失を招きやすい

下落相場でのトレード手法とリスク、特にショートやレバレッジの危険性

- 先物やプットを使ったショートは実務上難しい
  - 高ボラ相場ではショートは上下振れで損失を受けやすい
  -

    大幅下落の後に大幅上昇が来ることがある
  - 短期で下落局面のみ狙うのは成功しにくい
  - ずっとショートし続けるのは持続不可能
- レバレッジ取引は相場混乱時に危険
  - 3〜4倍のレバレッジで資産の大部分を失う可能性がある
  - 証券会社がレバレッジ制限や強制決済を行う可能性がある
  - 普段からレバレッジをかけないことを推奨
  - 複雑なオプション使用は下落局面で不適切な場合がある
- 高ボラ相場での短期取引は困難でメンタル課題が大きい
  - 大きな上下動では短期方向当ては精神的に厳しい
  - 信念に頼る戦略は損失拡大しやすい
  - 大相場で短期の幅取りは避けるべき